

見ぬま田んぼ・野草スケッチ「ドクダミ」十薬（じゅうやく、重薬とも書く）

分類：ドクダミ科

属名：ドクダミ属

花言葉：「白い追憶」「野生」



コロナ禍で閉じこもった生活をしていました。久しぶりに散歩に出かけ足元の野草を見て歩きました。先日見つけたコバノタツナミを見に行きましたらすっかり影を潜め見当たりません。植物たちの季節への対応は素早いです。見渡すと小さな白い花が咲き誇っていました。生命力旺盛なドクダミの花です。下記の欄にまとめましたように花と思っていたのは、白い総苞片で4枚はダミーの花びら?その中の黄色い搭乘のもの小さな点々が花だそうです。今度、ルーペで見えます。



「 ドクダミ 」 十薬（じゅうやく、重薬とも書く）	
世界：	日本から東南アジアにおいて広く分布
生育地：	空き地、道端、林によく群生、白い地下茎が横に伸び、盛んに枝分かれして繁殖する
茎 丈：	多年生の草本 20 - 50cm 黒紫色を帯びて直立
葉	葉が互生、卵状の心臓形で全縁[13][12]。葉身の表面は緑色で、裏面は紫色
花期：	5 - 8 月、葉腋から花茎
花・花色：	頂には十字状に、径 2 - 3 cm ほどの4 枚の白色の総苞（総苞片：花卉に見える部分）を開き、その中央につく長さ1 - 3 cm の穂のような円柱状の花序（花穂）に、微細な淡黄色の花を密生、花には花卉も萼もなく、雌蕊と雄蕊のみからなる[16]。1つの花には、先が3裂した雌しべが1個と、3 - 8個の雄しべ
種子：果実	果実はできず
特徴：	アルデヒド由来の特有の臭気、天ぷら、どくだみ茶、内服薬として、胃腸病、食あたり、下痢、便秘、利尿などに利用され、外用薬としても腫れ物、吹き出物、皮膚病などの排膿や毒下しに。
由来	「毒を矯（た）める」から、「毒矯め（ドクダメ）」が転訛、「毒痛み」の意味で毒や痛みにも効くことから名付けられたという説もあち。
表の記事と写真は、「和蘭 記事はウィキペディアより 20.6.5	